

W02a **SPICA 搭載観測装置の検討状況概要**

松原英雄、中川貴雄、川田光伸 (ISAS/JAXA)、SPICA プリプロジェクトチーム、市川隆 (東北大学)、SPICA サイエンスワーキンググループ

我々の体や我々が住む世界を構成する物質は、どこで生まれどのように進化してきたのか？この「宇宙の物質循環」という基本的な問いに対する答えを、我々は SPICA でのみ達成可能な中間・遠赤外線波長での圧倒的な高感度により明らかにする。本発表では、この目的を達成するための焦点面観測装置の検討状況、特に 2011 年 5 月より開始された国際科学 / 技術審査の進行状況について報告する。

SPICA に搭載する装置の選定基準は、冷却望遠鏡を搭載する SPICA の目指すユニークな科学目的を達成する上での装置仕様の整合性や、衛星の限られたリソースとの整合性、技術的・プログラムの実現性等である。これらを評価する技術・科学評価委員を JAXA と ESA を中心に選出し審査を進めてきた。その結果、中間審査報告が、2011 年 5 月に内部公表されており、これにより搭載が確定的な必須装置が識別された。同時にいくつかの装置・機能については審査会から課題設定し、その回答が装置チームより提出された 10 月より再審査を実施している。本発表では、このような経緯を経て最終的に決まりつつある（予定では 2013 年 2 月に公表予定の）搭載観測装置の全貌を紹介する。